

藤沢市遠藤地区における民選委員と大学生の取り組み

～地域祭りへの共同出店をモデルケースとして～

【目的】 大学と大学が所属する地域コミュニティである、藤沢市遠藤地区との

協働的な持続可能な関係性構築を通年レベルで実現するための第一歩とする

【活動内容】

参加者▷慶應義塾大学湘南藤沢キャンパスに通う学生の有志
約 20 名、遠藤市民センター、遠藤地区民生委員

日時▷8月3日～5日、9月19～20日の間に活動

内容▷主に、地域散策、地域の夏祭りへの共同団体出店及び祭りへの参加、プロジェクトを通してのグループ活動。

背景▷慶應義塾大学湘南藤沢キャンパスは、神奈川県藤沢市に所在し、今年で26周年を迎えた。私立の大学としては珍しく都心から離れた遠藤にキャンパスを置いているが、私設の教育機関と地域ということもあるのか、見えない壁を隔てて同じ場所で生活してきた。

提案▷誰もが身近に感じる“食”というテーマを通じて、学生と地域の交流をはかる。

活動▷遠藤で町をあげて行われる「えんどう夏祭り」に学生と地域のリーダー役民生委員が共同で出店する。

【なぜプロジェクトに参加したの??】

・「お祭り」のお手伝いと聞いて、純粋に楽しそうだと思ったからです。また、今後自分のプロジェクトでも遠藤と関わっていきいと思っているからです。(総合3年高田彩葉)

・地域に自分が入って行くきっかけになれば良いと思い参加しました。(総合1年島田美久)

・地域の人と一緒にって行事に参加する機会が無かったこと、人と喋る機会が欲しかったことから参加しました。(環境4年小幡理沙)

・地域に興味があったからです。(環境3年黒田潤一郎)

・自分が普段、女川町という漁港で活動しているので、農村の様子をもっと近くで見て見たかったからです。(総合4年山本結月)

・遠藤地区と大学のつながりの希薄さを問題視していたこと。SFC生にこういう活動や遠藤地区のことを知って欲しいと思ったからです。(総合3年早見あかり)

・遠藤の町歩きを楽しみに参加した。(環境4年岡田彬彦)

・アルバイトでも、サークルでも、勉強でもない奇体験をしたかったからです。(総合3年田村葉)

・1つは、日常生活に溢れている「学び」を地域と大学が交流する過程で見つけ出していきたいなと思ったからです。

もう1つは、自分が幼稚園・小学校・中高等学校と過ぎて来たプロセスに地域のお祭りに参加するといったことがなかったため、純粋に立場は異なるけれども参加するという行動を起こしたかったからです。(環境2年小野真太郎)

【4つの班活動】

食事班▷遠藤で採れる食材を活かして
プロジェクト期間中の食事を作る

デザイン班▷出店する店舗の飾り付け・服装
商品パッケージのデザインを手がける

映像班▷プロジェクト中の様子を記録し
活動を伝える映像としてまとめる

冊子班▷プロジェクトに関する取材などを行い
活動を伝える冊子としてまとめる

【このプロジェクトを通しての感想は?】

・初めて、遠藤にある大学に通っている実感が湧きました。遠藤の方々からも環境からもたくさん学ぶものがありました。オンラインでも学べるようになった今こそ、こういったその場でしか学べないことの価値があると思います。

(総合3年富田里紗)

・灯台下暗しっていうのはもったいないと感じました。大学がある地域の方々との良い関係性を築けるのはその大学にとってかけがえのないことではないでしょうか。

(環境3年黒田潤一郎)

・たくさんの人との繋がりができてとてもよかった。ほくほくイモの販売で達成感や一体感があつた。

遠藤地区が身近になった。(環境1年藤間優子)

・自分自身の地元のお祭りと比べて盆踊りもちゃんとしてるし、規模が大きいので、地元を盛り上げる人の力に大きな魅力を感じました。プロジェクトとしてもっと遠藤とコラボしていける可能性を感じました(環境4年岡田彬彦)

・私は食事チームということで、料理に基本的に携わっていたのですが、本当に美味しい野菜が多かったです。ただ野菜があるんじゃないかと、匂があつて、それを肌で感じられる環境の豊かさを強く実感しました。年中なんでも揃う大型スーパーにはない豊かさです。(総合4年山本結月)

・夏祭りに関わった地域の方々とは当日がほぼ初対面でしたが、地域の方々も学生もお互い肩書きをとっぱらってひとつのことを成し遂げられたことにとても充実感を感じました。遠藤というこんなに身近なところなのに、自分の知らない魅力が沢山あることを知れたきっかけになったことも嬉しく思います。人のあたたかさを直に感じる素敵なお祭りでした。(環境4年陳汐)

【遠藤特別プロジェクト】 小幡理沙、早見あかり、小野真太郎、富田里紗